大貫　正皓

■ 所属 ： 一般教育科

■ 職位 ： 講師

■ 学位 ： 博士(文学)

■ 入職 ： 2025/4/1

■ 業績

【論文】(すべて査読有)

[1] 大貫正皓:“「とよかげ」の読者と増益 ”,
『物語研究』第25輯, 物語研究会編, p.112-p.127 2025年3月

[2] 大貫正皓:“『高光集』西本願寺本巻末歌九首と『多武峯少将物語』”,
『和歌文学研究』第129号 和歌文学会編 p.11-p.25 2024年12月

[3] 大貫正皓:“『高光集』の成立時期――『拾遺抄』にみられる高光歌との関係を通して―― ”,
『国語と国文学』第101巻第9号 東京大学国語国文学会編 p.20-p.36 2024年9月

[4] “『蜻蛉日記』中・下巻成立考――後宮への提出という視点から―― ”,
『古代中世文学論考』第52集 新典社 共著者:青柳 まや　加藤 伸江　鎌田 凌矢 大村 美紗
谷口 耕一 三村　晃功 p.33-p.65 2024年4月

[5] 大貫正皓:“兼家による『蜻蛉日記』執筆要請の実相――上巻の検証を通して―― ”
『二松学舎大学人文論叢』二松学舎大学人文学会編 第112輯 p.137-p.163
2024年3月

[6] 大貫正皓:“『本院侍従集』はどう読まれていたのか――「いとこ」の解釈をめぐって―― ”,
『二松学舎大学人文論叢』二松学舎大学人文学会編　第110輯 p.131-p.158
2023年3月

【口頭発表・ポスターセッション】

[1] 大貫正皓:“『和泉式部日記』の制作と享受――三条朝における妍子後宮との関わりという
視点から――“ ,中古文学会 2025年春季大会(於東京女子大学) 2025年5月18日

■業績（前ページ）の続き

［2］　大貫正皓：“『一条摂政御集』「とよかげ」の部の読者と増益 ”,物語研究会 2024年1月例会
自由発表（zoom開催：担当事務局 東北大学） 2024年1月27日

［3］ 大貫正皓：“兼家による『蜻蛉日記』執筆要請の実相――上巻冒頭部の検証を通して―― ”,
二松学舎大学人文学会 第126回（於二松学舎大学） 2023年7月22日

［4］　大貫正皓：“『高光集』の成立時期と『多武峯少将物語』 ”,
和歌文学会 2023年5月例会（zoom、対面同時開催 於二松学舎大学） 2023年5月13日

［5］　大貫正皓：“『本院侍従集』はどう読まれていたのか――「いとこ」の解釈をめぐって―― ”,
和歌文学会 2021年5月例会（zoom開催:担当事務局：中央大学） 2021年5月15日

以上